サンラリーグループ
Web 請求システム
（Sunrally 請求）

取 扱 説 明 書

第 3 版　2014/04/23　作成

サンラリー株式会社
情報システム部

～ 目 次 ～

1. 概要

サンラリーグループの各社宛の請求書データを、インターネットを介して送信する事ができます。
入力画面を使用して作成した請求書データは、送信時に CSV ファイルに変換され、さらに暗号化されたファイルに変換されて HTTP でサーバーへと送信されます。
過去に送信したデータは、照会画面で見る事ができます。 また、送信したときに作成された CSV ファイルと暗号化ファイルは、バックアップとして残るので、通信やサーバーの異常で送信が出来なかった場合には、E メールに暗号化ファイルを添付して弊社まで送信することも出来ます。
入力画面を使用せずに、ユーザーが作成した CSV ファイルを暗号化して送信する機能もあります。

各仕入先様を識別するために、本アプリケーションのご案内時に『識別コード』と『パスワード』を発行いたします。 これらはセキュリティ上重要ですので、厳重に管理してください。

本アプリケーションの推奨動作環境は、以下の通りです。（動作を保障するものではありません）

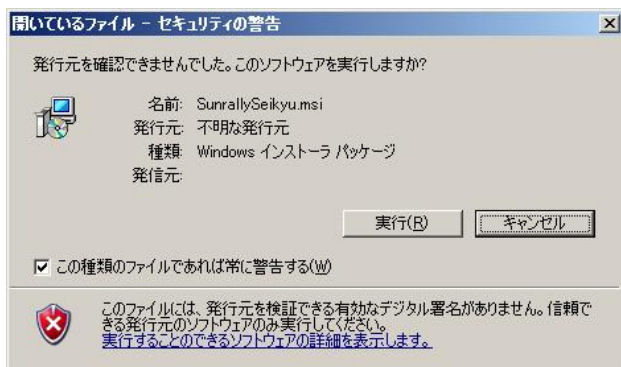
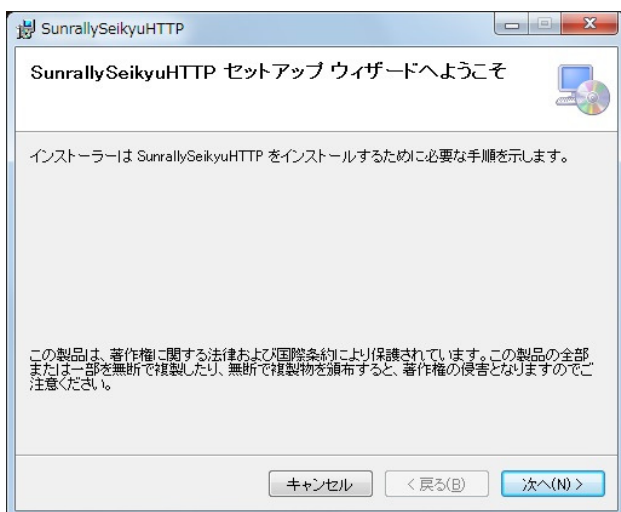
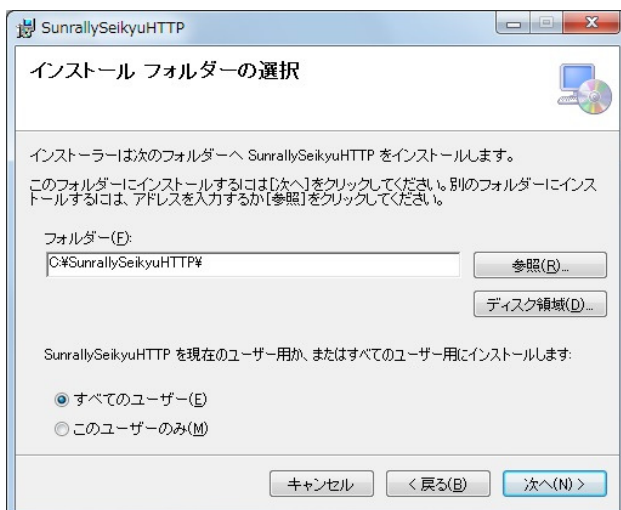
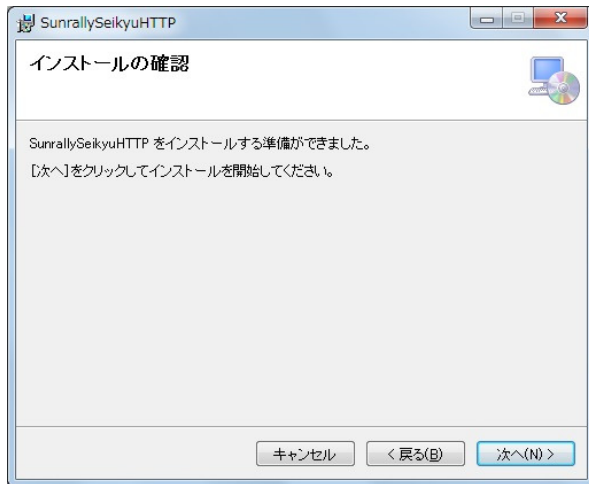
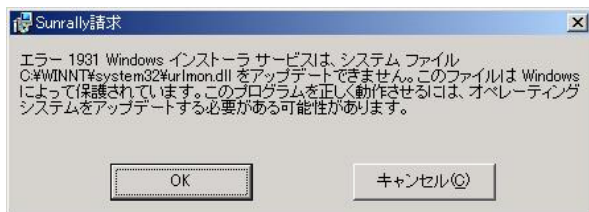
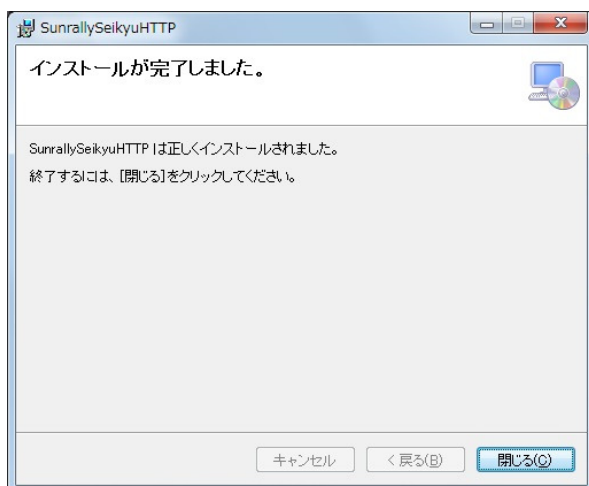
コンピュータ	PC/AT 互換機
OS	Windows XP professional sp3 Windows7 professional sp1　　で動作確認。
CPU　メモリ	OS が十分な速度で動作するもの。
HDD 空き容量	50MB 以上。 ログや通信済みファイルがたまっていきますので、十分な空き容量が必要です。
画面解像度	800×600pixel 以上。
インターネット接続	常時接続環境。 ダイヤルアップ接続でも可能ですが、本アプリケーション実行前に接続を確立させ、実行中は切断しないようにしてください。
ソフトウェア	Excel 2000　以上。 入力データを印刷するときに必要です。

2. ダウンロード

Internet　Explorer　を起動して、アドレスバーに次の URL を入力して、[Enter]キーを押下します。
http://www.sunrallygroup.co.jp/download/SunrallySeikyu.htm
“サンラリーグループ Web 請求システム　ダウンロード”のページが表示されます。
画面上の“ダウンロード”と書かれたリンクを右クリックして、表示されたメニューの中から“対象をファイルに保存”をクリックします。
“名前をつけて保存”ダイアログが表示されるので、デスクトップなどに保存します。
ダウンロードが済んだら、Internet　Explorer　を終了します。

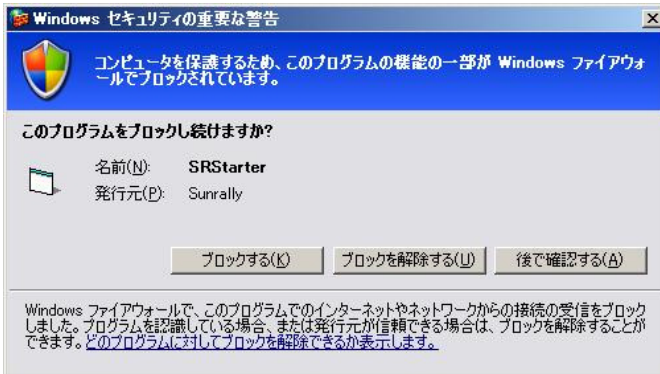
3. インストール

インストールは管理者権限のあるユーザーで行ってください。
実行中のアプリケーションがある場合は全て終了させ、セキュリティ対策ソフトを使用している場合は、インストールの間だけ無効にしてください。

デスクトップなどにダウンロードしたファイル“SunrallySeikyuSetup.msi”をダブルクリックで実行します。

右のダイアログが表示されたら、“実行”をクリックします。
（OS や設定によっては、表示されない事もあるので、その場合は次に進みます。）

“次へ”をクリックしてください。

“次へ”をクリックしてください。

“次へ”をクリックしてください。

OS によってはこの画面が表示される事があります。
“OK”をクリックしてください。

“閉じる”をクリックしてください。

以上で、インストール作業は終了です。

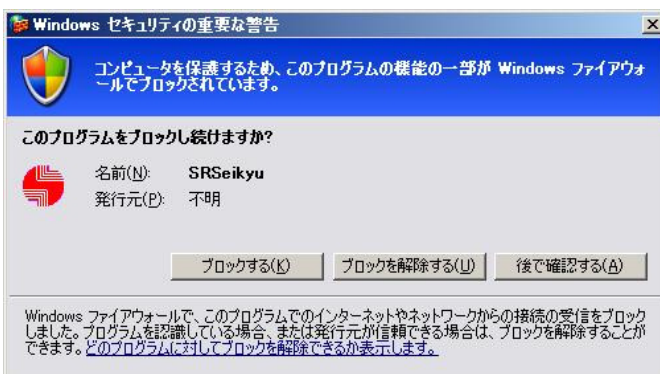
4. 起動とログオン

タスクバーの“スタート”ボタンをクリック、“すべてのプログラム”から“Sunrally 請求”をクリックします。

OS や設定によっては、左のダイアログが表示されます。

その場合は、“ブロックを解除する”をクリックします。

注意：

次の画面の裏に隠れてしまう事もあるので、解除するのを忘れないようにしてください。

サンラリー（株）から発行された『識別コード』と『パスワード』を入力して、“LogOn”ボタンをクリックします。

“LogOn”ボタンをクリックした後、OS や設定によっては、左のダイアログが表示されます。

その場合は、“ブロックを解除する”をクリックします。

このとき、ログオンが失敗しても問題ありません。

注意：

次の画面の裏に隠れてしまう事もあるので、解除するのを忘れないようにしてください。

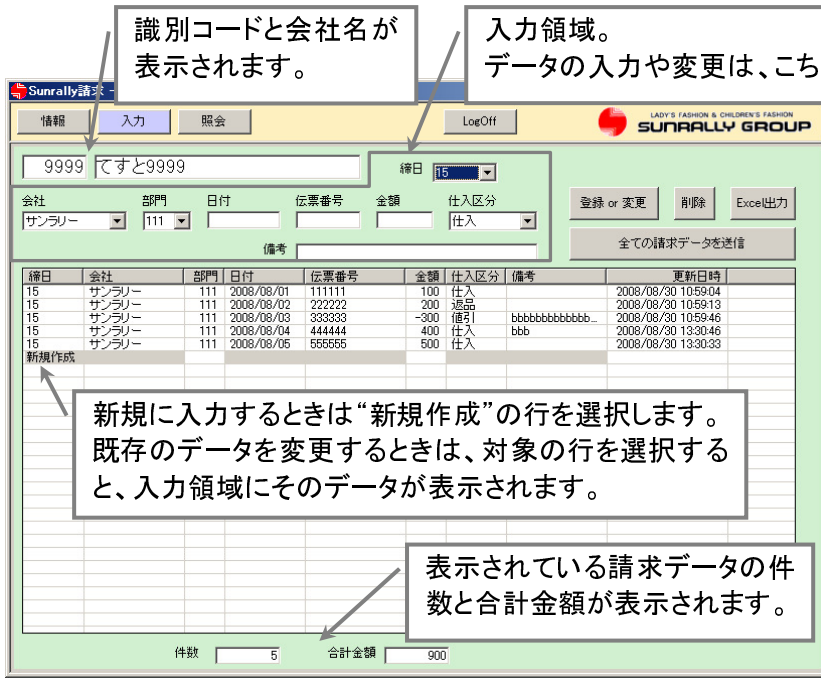
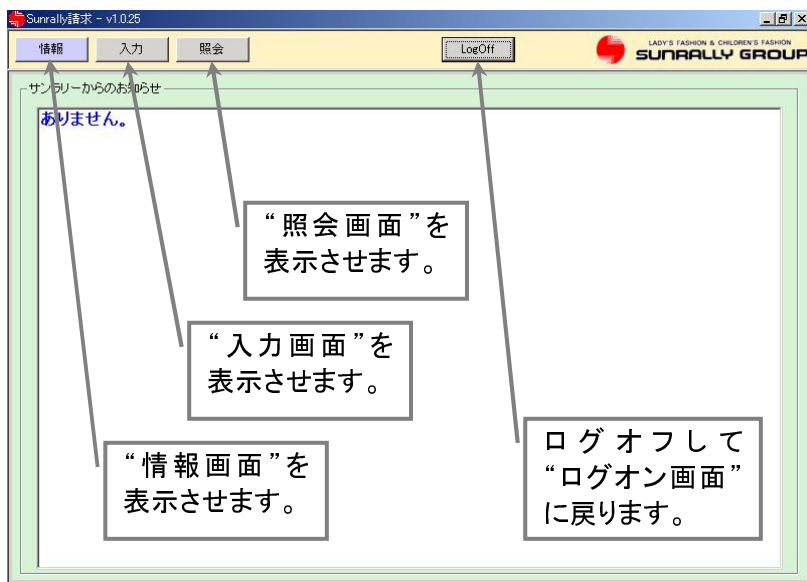
インストール後、初めて起動した場合は、ここまでで一旦アプリケーションを終了させます。
そして、再度起動とログオンを行い、ブロックが解除されている事を確認します。

5. 動作モード

本アプリケーションには、『手動モード』と『自動モード』があります。

手動モード	“スタート”ボタンから実行させる『手動モード』では、入力画面や照会画面が存在し、ユーザーの手入力によって請求書データを作成して送信します。
自動モード	『自動モード』は、決められた書式であらかじめ作成しておいたファイルを、ユーザーの入力操作無しに送信します。 御社のシステムにあわせたプログラムを組む事によって、完全に自動化することも可能です。
テストモード	『手動モード』『自動モード』それぞれに『テストモード』が指定できます。 これは、4 桁の識別コードの前に“T”を付け加える事によって（例：T9999）機能し、このとき送信されたデータはテスト用として弊社に届きます。 テスト用データは、弊社のシステム内で無視されます。

6. 手動モードの操作方法

『手動モード』は、タスクバーの“スタート”ボタンをクリック、“すべてのプログラム”から“Sunrally 請求”をクリックする事で起動します。

まず、前記の手順でログオンまで行います。

ログオンが認証されると、左の画面に切り替わります。

この画面は、弊社からお知らせが表示される“情報画面”です。

画面上部に各機能の画面を表示するためのボタンがあります。

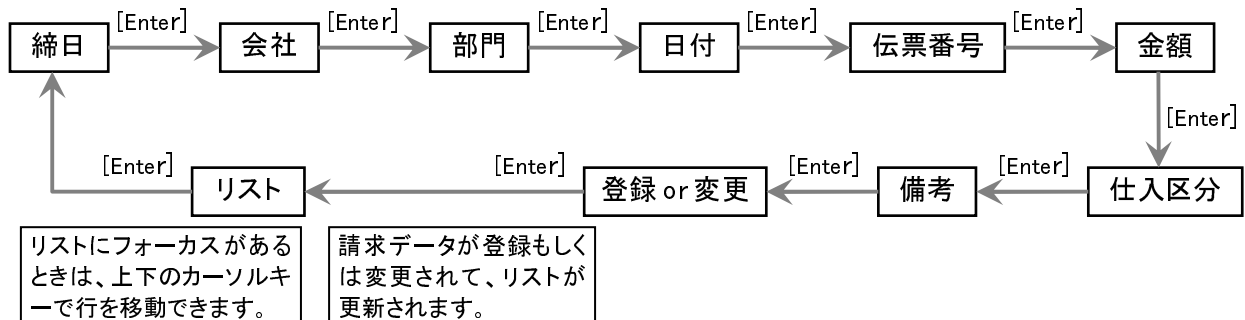
画面上部の“入力”ボタンをクリックすると、この“入力画面”が表示されます。

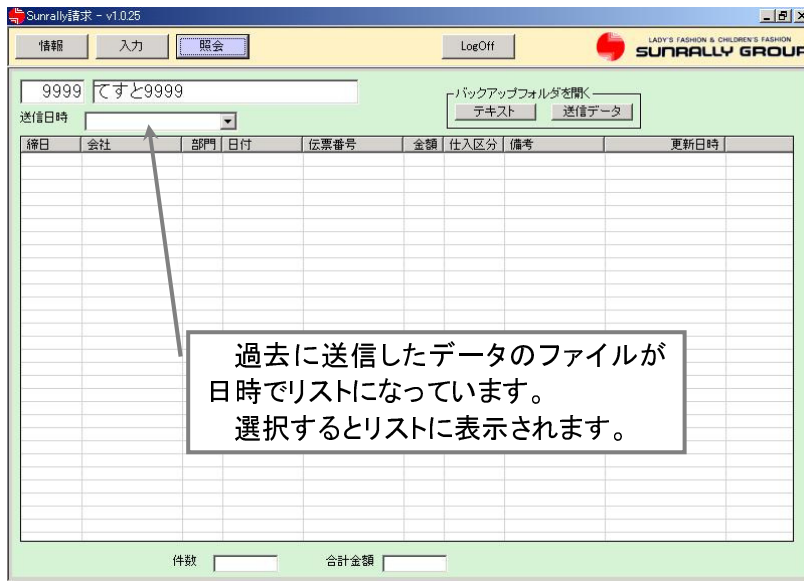
入力領域にデータを入力して、“登録 or 変更”ボタンをクリックすると、画面下部のリストに登録されます。
このとき、“新規作成”の行を選択していたなら、新たにデータが追加されます。
また、既存のデータの行を選択していたなら、そのデータが変更されます。

“削除”ボタンをクリックすると、選択されている行が削除されます。

“Excel 出力”ボタンをクリックすると、入力済みの請求データを Excel ファイルとして出力できます。 ボタンをクリックすると、Excel が開いて請求データが表示されるので、印刷や保存などの処理を行います。

データの入力が全て済み、入力に間違いが無いか確認したら、“全ての請求データを送信”ボタンをクリックします。 送信ファイルが作成され、送信されます。
なお、入力した請求データは、アプリケーションを終了しても記憶し続けます。 データはあらかじめ入力しておき、後日送信を行うというような事も可能です。

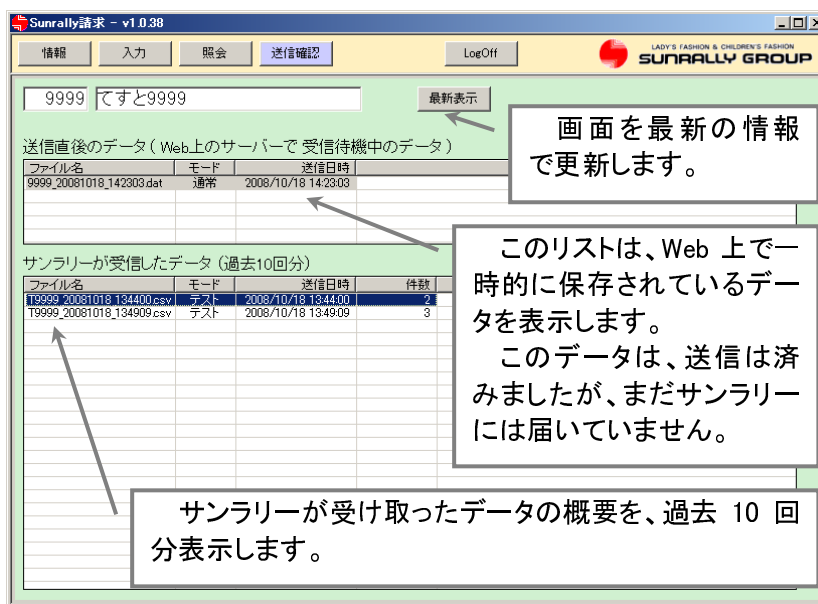
入力領域のフォーカスは、[Enter]キーを押すと次の入力領域に移動します。

“締日” “会社” “部門” “仕入区分”は、上下のカーソルキーでも変更できます。

日付は、日だけを入力して[Enter]キーを押すと、今月の年月が自動で追加されます。 また、“801”のように入力すると、“2008/08/01”など今年の日付に変換されます。

画面上部の“照会”ボタンをクリックすると、この“照会画面”が表示されます。

“手動モード”で過去 6 ヶ月以内に送信したデータが照会できます。

“テキスト”ボタンをクリックすると、過去に送信したファイルの暗号化前のものが保管されているフォルダが、エクスプローラで表示されます。

“送信データ”ボタンをクリックすると、過去に送信した暗号化ファイルの保管されているフォルダが、エクスプローラで表示されます。

これらのファイルは作成されていく一方なので、年毎にまとめたり 5 年前のデータは削除したりするなど、ユーザーによる管理をお願いします。

画面上部の“送信確認”ボタンをクリックすると、この“送信確認画面”が表示されます。

この画面で、送信したデータがサンラリーに届いたかどうかを調べる事ができます。

送信されたデータは、一旦 Web 上のサーバーに保存されます。 サンラリーは、定期的（8:00～19:00 10 分間隔）にこのデータを読み取り、Web 上からから削除します。

データを送信した直後は、“送信直後のデータ”リストに表示される送信日時で、送信が行われたかを確認する事ができます。

しばらくして“最新表示”をクリックすると、“送信直後のデータ”リストは空になり、“サンラリーが受信したデータ”リストにデータが表示されます。 これはサンラリーが Web 上のデータを読み取った後に削除した事を表します。

“サンラリーが受信したデータ”リストの送信日時と件数を調べる事で、サンラリーにデータが届いたかを確認する事ができます。

送信のタイミングによっては、“送信直後のデータ”リストに表示されず、すぐに“サンラリーが受信したデータ”リストに表示される事もあります。

7. 自動モードの使用方法

『自動モード』は、実行ファイルにコマンドライン引数で、識別コード・パスワード・ファイル名を与えて実行する事でユーザーの入力無しに送信を行います。

```
書式
SRStarter.exe 識別コード パスワード ファイル名
          例: SRStarter.exe 9999 abcdefgh Seikyu.csv
```

実行ファイルのショートカットに上記のようにスペースで区切った引数を指定すると、ショートカットを実行するだけでファイルを暗号化して送信します。

送信するファイルは、アプリケーションをインストールしたフォルダの下の“CSV”フォルダに作成してください。

請求データ CSV ファイルの書式

```
"仕入先Code","仕入先名","締日","会社","会社名","部門","日付","伝票番号","金額","仕入区分","仕入区分名","備考","更新日時"
"9999","てすと9999","15",1,"サンラリー",111,"2008/08/01","100000",111,11,"仕入","","2008/08/27 12:41:50"
"9999","てすと9999","15",1,"サンラリー",111,"2008/08/01","200000",222,11,"仕入","","2008/08/27 12:41:58"
"9999","てすと9999","15",1,"サンラリー",111,"2008/08/01","300000",333,11,"仕入","","2008/08/27 12:42:07"
```

最初の行は項目名です。 項目数以外はチェックしていないので、項目名は英語や数字に置き換えてもかまいません。

2 行目からが請求データになります。 ダブルクォーテーション（ ” ）の付く項目と付かない項目がありますが、全ての項目につけても問題ありません。 逆に日付項目などはダブルクォーテーションがないと、弊社での読み取り処理で異常となります。

備考など、何も入力しないときでもダブルクォーテーションを二つ付けてください。

『自動モード』で送信した後は、必ずログを調べて正常に送信されたかを確認してください。

ログは、アプリケーションをインストールしたフォルダの下の“Log”フォルダにあります。

8. テストモード

『手動モード』『自動モード』それぞれに『テストモード』があります。

『手動モード』のときは、ログオンするときの識別コードを“T9999”のように大文字の T を付け加えて指定する事によって『テストモード』になります。

『自動モード』のときは、実行ファイルに渡す引数の 1 番目にある識別コードを、“T9999”のように大文字の T を付け加えて指定する事によって『テストモード』になります。

特に『自動モード』を初めて使用する場合は、あらかじめ『テストモード』でテストデータを送ってください。 またそのときは、CSV ファイルの書式のチェックを行うので、弊社まで連絡をください。

第 1 版　2008/09/05
第 2 版　2008/10/18
第 3 版　2014/04/23